



TEAM APEV
PIKES PEAK CHALLENGE

**monster
SPORT**



2013年6月30日
コロラドスプリングス U.S.A



パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム決勝 TEAM APEV モンスター田嶋が劇的優勝！

コロラドスプリングス 6月30日(晴のち雨)

24日(月)から始まった「第91回パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム」のレースウィークもいよいよフィナーレを迎えた。決勝はバイク部門からスタート。四輪は午後からの走行だが、すでに前日から天候の崩れが心配され、チームではウェザーマップとレースの進行状況を見ながら準備をすすめた。

天気予報は当たり、エレクトリック・ディビジョンの走行を前に雨が路面を濡らし始めた。一部雨足が強い部分があり出走はディレイとなったが、雨雲は早い速度で移動しながら始めにトップセクションを濡らし、スタート地点に雨粒が落ちるころにはトップセクションの雨は降り止んでいた。問題は、どれほどの雨が路面に残っているかだ。それによってタイヤ選択が、レインかカットスリックが変わってくる。

モンスター田嶋は、20年以上におよぶパイクスピーク・ヒルクライムへの参戦の中で何度か同じ状況を経験してきた。その結果、用意してあったカットスリックを選択。さらに追加でカットを施した。チームは慌ただしくタイヤの準備をし、マシンをスタートラインに並べた。

(ページ 2 へ)

GoPro
Be a HERO.

SIM-Drive

三菱重工
この星に、たしかな未来を

Giti

Benesse

NTN TECO

TAJIMA
MOTOR CORPORATION

POLARG

TORAY

SANGA NEXT

朝日小学生新聞

おともと遊ぼう

SunRise
JAPAN

ThreeBond

Winmax

FPS
Flat Panel Speakers

KING
SPRINGS

KTC

KYOTO TOOL

WHEELS

POWER FILTER
High performance Filter

Aral

DES DES SPEED
RACING GEAR
DES SPEED



TEAM APEV
PIKES PEAK CHALLENGE

monster
SPORT



エレクトリック・ディビジョン最初の走者となったのは、予選トップ、三菱のトレイシー選手。タイムは 10 分 23 秒 649 を記録し、ひとまず、このタイムがベンチマークになる。続いてスタートしたのは、三菱の増岡選手。トレイシー選手を 2 秒弱逆転する 10 分 21 秒 866 で暫定首位に立った。

そして、モンスター田嶋がスタート。区間タイムでは前走の二人の記録を次々に塗り替えて行く。明らかに、そして圧倒的に速い！モンスター田嶋は、E-RUNNER パイクスピークススペシャルを手足の様に操り、場所によってグリップが違う難しい路面をクリアして行く。タイムは 9 分 46 秒 530！ウェット混在路面でありながら、ドライだった昨年の優勝者に並ぶ驚異的なタイムでフィニッシュしたのだ。

続いてミレン選手がアタック。しかし、モンスター田嶋のタイムには及ばずフィニッシュラインを通過。この瞬間、チームに歓喜の輪が広がった。

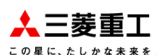
今大会がスタートすると三菱勢が速く、3 日間のプラクティスではその一角を崩すに止まり、決勝の闘いは全く予想のつかないものとなっていた。しかしながら、チームスタッフは最後まで努力を惜しまず働き、マシンを仕上げてきた。そして、特筆すべきは、モンスター田嶋の経験とテクニックだろう。これなくして今大会の勝利は無かったとさえ言える。

また来年、ライバル達はより強力なマシンを持ち込んでくるだろう。そして、より一層高いレベルの闘いになる。しかし、それこそが電気自動車の未来を切り開いて行くのだ。

(ページ 3 へ)

GoPro
Be a HERO.

 SIM-Drive

 三菱重工
この星に、たしかな未来を

Giti 

 Benesse

NTN TECO

 TAJIMA
MOTOR CORPORATION

POLARG

TORAY

SANGA NEXT 

朝日小学生新聞

 朝日小学生新聞

 SunRISE
JAPAN

ThreeBond

Winmax

FPS
Flat Panel Speakers

KING
SPRINGS



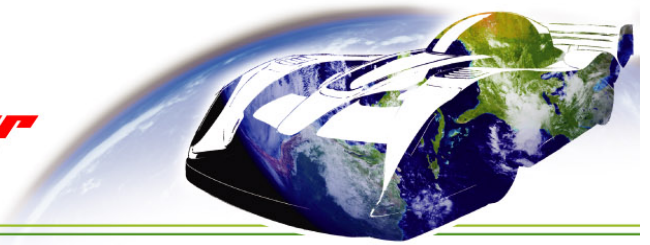
KTC
KYOTO TOOL

H&E
WHEELS

POWER FILTER
High performance Filter

Aral

DESIGN SPEED
RACING OIL
BY SUNRISE



【ドライバー モンスター田嶋 コメント】

「今日は朝から天気が良く、行けると思っていたのですが、セバスチャン・ローブ選手が素晴らしいタイムをだしたあからの雨で、記録への挑戦は終わってしまいました。そこからは、エレクトリック部門の中で 1 位を取る事に集中しました。

路面は滑りやすく、多くのアクシデントが発生した厳しいコンディションでした。しかし、エンジニアと相談して決めたセッティング内容が良く、結果的に、2011 年に自分がガソリンカーで出したコースレコードを電気自動車で超えられたことは大きな喜びです。今後もさらに熟成を進めて。究極の電気自動車を目指します。応援ありがとうございました。」

【ファイナル(決勝)リザルト】

エレクトリック・ディビジョン

Pos.	No.	Driver	Car	LapTime	
1	1	Nobuhiro Tajima	TAJIMA	9:46.530	
2	32	Hiroshi Masuoka	MITSUBISHI	10:21.866	
3	34	Greg Tracy	MITSUBISHI	10:23.649	
4	76	Rod Millen	TOYOTA	10:24.301	
5	24	Roy Richards	eO	17:30.614	
6	8	Ikuo Hanawa	SUMMIT	DNF	
7	100	Janis Horeliks	HONDA	DNF	

Unofficial